

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 148



2004. 7

- シリーズ“素晴らしい本の世界” ●図書館の環境整備 ●シリーズ“！”第15回リニューアルしたホームページについて
- 図書館利用セミナー実施報告 ●図書館利用統計 ●図書館の動き ●図書館からのお知らせ



「^{からす}鴉> と <^{ほう おう}鳳凰>」

—三島由紀夫の『金閣寺』—



池田 純溢

大分以前から『金閣寺』関係の資料を集めてきた。参考文献となる論文類は、大岡昇平などの戦後文学研究と連動して割と揃っていたので、主に手に入れたかったのは、焼失以前に描かれた、あるいは撮られた、絵や写真などのビジュアルなものだった。静岡にいては古書目録のリストが頼りで、それらしきものを注文して届いてみると当てが外れたりもしたが、反対に小躍りするような狙い以上のものもあったりした。

三島由紀夫の『金閣寺』は、私にとってずっと腑に落ちないところのある作品だった。炎上直前、雨夜の闇に浮かび上がってくる<金閣>は、この小説の最も魅力的な部分で、三島の華麗で虚無的な文体によって初めて可能になったといってよい。しかし、なぜこんなにこの部分

に惹きつけられるのか分からなかった。そんなとき、ブルガリアからの留学生が、三島が好きで『金閣寺』を読みたいと言ったので、良い機会だと思い、インドネシア、ミャンマーの留学生を加えて輪読の会を開いた。私は聞いていて、時々読み方の誤りを注意するだけだったが、考え込むこともしばしばあった。

たとえば、小説の冒頭部に「父によれば、金閣ほど美しいものは地上になく、又金閣というその字面、その音韻から、私の心が描き出した金閣は、途方もないものであった。」とあるのだが、その父に連れられて初めて鹿苑寺を訪れ、父とともに鏡湖池^{きやうこち}を隔てて金閣に対面したとき、少年の溝口は「私はいろいろに角度を変え、あるいは首を傾けて眺めた。何の感動も起らなかった。

た。それは古い黒ずんだ小っぱけな三階建にすぎなかった。頂の鳳凰も、鴉がとまっているようにしか見えなかった。」というようなものでしかない。まだ見ぬ前の想像の金閣と初めて目にした現実の金閣の間に、大きなギャップが生じている。この溝口のギャップがどうして生じたのか読みとれないまま、私は終末部近くにきて、溝口少年の期待を大きく裏切ったこの金閣が、雨夜の闇の中に、今度は濃紺の無明の長夜を背景として燦然と金色に輝いて現れてくるのを眼の当たりにしなければならない。こうした金閣の変容の構造が理解できないでいたのだ。何としてでも「古い黒ずんだ小っぱけな三階建てにすぎなかった」という焼失以前の金閣を見なければと思った。

あるとき、京都の古書店の目録を見ていると、『鹿苑』というタイトルの本があった。内容は見当もつかず、皆目分からない。手にとって覗いてみることもできないので、とにかく注文することにした。無駄になっても構わないと思っていた。実際そんな場合もしばしばあったが、届いてみると、昭和30年10月に再建された金閣の落慶を記念して、鹿苑寺から刊行されたもので、非売品だった。見慣れた新しい金閣の写真が巻頭に置かれ、三層の金閣は緑の松を背景にして輝き、鏡湖池の水面にその影が映えている。ページごとに確認してゆくと、後半少しいったところに「明治37年以前の金閣(南)」と「明治修理直後の金閣(北と西)」の当然モノクロの写真2枚が収録されていた。鏡湖池のこちらから見える南側の写真を見て愕然とするとともに、暫く経ってから妙に納得できる気持ちにさせら

れた。足利義満の創建当初から500年以上風雨に曝され続けているのに思い至った。まさに「古い黒ずんだ小っぱけな三階建て」が現実の金閣であった。大正・昭和の絵葉書や観光案内の金閣も何枚か収集できた。

こんなふうにして古い金閣の写真や絵を追っている途中で、思いがけない金閣に出会った。『鹿苑』の写真とはほぼ同時代といってよい、明治30年に出版された江戸錦絵の雪の日の金閣で、着物姿の婦人の背後に遠景でやや小さく描かれ、これは色彩豊かに金色の光を放っている。写真が写しとどめる歴史の年輪を刻んだ金閣に対して、江戸錦絵が想い描いたところの伝説の金閣が、どの時代からか私たち日本人の中に生き始めていたのである。三島は見事にこうした金閣寺にまつわる、伝統的な日本人の精神構造の作品化に成功していたのだ。

三島由紀夫の『金閣寺』研究に、上記のような「<鴉>と<鳳凰>」というサブタイトルをつけてまとめようと準備している。この夏の仕事で10月初旬までにはなんとか仕上げたい。

(教育学部・国語教育)

◆図書館にある『金閣寺』所収の図書◆

【静岡本館開架】

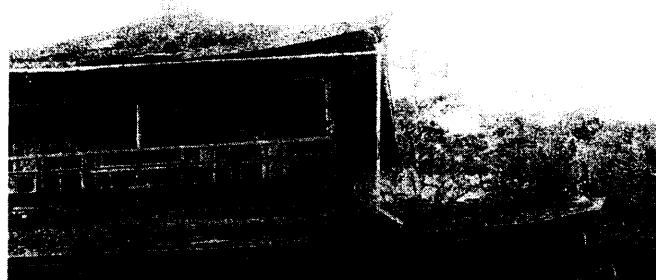
- ・『三島由紀夫全集』6巻 (918.68/MI53/6)
- ・『新潮現代文学』32巻 (918.6/SH61/32)

【浜松分館開架】

- ・『新潮日本文学』45巻 (910.8/153/45)

【静岡・浜松留学生コーナー】

- ・『The temple of the golden pavilion』



〔明治37年以前の金閣(南側)の一部〕(『鹿苑』より引用)



英語？日本語？： 本と頭の中の言語世界



吉村 仁

わたしは、1982年から89年まで7年間、アメリカ東部のニューヨーク州にあるニューヨーク州立大学環境科学林学大学の大学院博士課程に進化生態学を学びに留学していた。その後も、博士研究員となりカナダ2年、アメリカ3年、イギリス2年と英語圏に住んでいた。そして、1997年に静岡大学に赴任してきた。いま、考えるといろいろな意味で随分とすごい経歴である。その間、じつにいろいろな書き物をよんできた。このはじめての留学生活のあいだのことである。

留学してすぐは、まったく英語が話せず・聞けず、必死になって生活や授業に慣れようと無我夢中であったが、1年もすると落ち着いてきた。そうして、無性に本が読みたくなってきた。といっても、英語の書き物は、その当時、新聞、雑誌、論文、専門テキスト、生物科学専門書などは無数に読んでいた。とくに専門誌は学会などに加入して、少なくとも20-30誌購読していた。

大学の生物学教室は5階建ての建物1つを占めていたが、各階の事務室（秘書室）にメールボックスがあった。私は1階にいたので、1階のメールボックスに雑誌が届いた。私の雑誌の量が多いので、秘書はわざわざ私のメールボックスを発信ボックスと同じ大きさ、つまり、最大のボックスに割り当てていた。よく、1階全部のほかの人のメールと同じ量が私のところに來るといっていたが、1-2週間留守にするとその前に山のように積み上げられていたから、ま

んざらうそではない。また、生物の専門書もお金が続く限り無数に購入していたので、教授たちは州立大学と隣接するシラキュース大学の図書館にない本は私のところにあるといっていた。ただ、全部読んでいるかという点と否である。つまり、購読しているのと、読んでいるのは異なるのである。つまり、私には、「つんどく（積読）」趣味があったのである。

話を戻して、一般の書き物では、まず、新聞を購読していた。New York Times という有名な新聞だが、実際はニューヨーク市の市民新聞で、日曜日には、どこの誰それと誰それが結婚したとか、どこの病院で誰と誰の間に赤ちゃんが生まれたとか、まことに田舎くさい地方の町中新聞である。記事もシティのことが先決で、そのあと、州内、全米、そして世界欄はとってつけたようであった。また、アメリカの新聞の記事は1面からスタートして途中からほかのページに飛ぶから大変である。私は毎朝のようにトイレに新聞を持ち込み隅から隅まで眺めていた。よく1時間くらいは座っていたと家族はいつている。丁寧に読んでいたのは、テロなど国際社会の事件と経済欄である。

一般雑誌は、ニュース週刊誌の Newsweek か Time のどちらかをよく読んでいた。このほか、月刊誌のプレイボーイかペントハウスを年間購読していたが、写真を眺める以外に活字を読んでいたかという点あまり記憶がない。でも、面白いことに無数の「4文字ことば（4-letter

words)」やそれに類する特有の表現を知っている。「4文字ことば」とは、性的行為に関係する言葉の総称であるが、これらの多くの言葉が4文字でできているので、その名称になっている。興味(?)のあることは、眺めていても読めるものなのである。

では、ほかの一般の英字の書物かというと、当時はあまり読んでいないのである。わずかに読んだのが、フランク・ハーバートの「砂の惑星(Dune)」というシリーズの第4部以降くらいである。留学前に第3部まで早川書房の文庫で読んだので、その続きを読みたかったのである。毎日、夜、寝床に入って眠くなるまで少しずつ読むのである。数行・数分で寝てしまうこともあるが、大体3-5ページくらいであったが、それでも3ヶ月くらいで一冊読破していた。同僚の博士課程の女子学生が、Duneを読んでいるといったら、「言葉が難解なのによく読めるね。アメリカ人でも難しい。」と言っていたが、面白いことに辞書はまず使っていないのである。つまり、言葉というものは、知らなくてもある程度は読んでいううちに理解できるものである。皆さんも日本語の本なら経験があると思うがどうであろうか?

このように、英語の字を読むことは、乱読・速読なんでもしていた。そのうちに、いつの間にか、字面(じづら)を眺めているだけで理解できるようになっていたようである。1年くらいして、週1回3時間のディスカッション授業のことである。毎回、数編の論文を読んできて、皆で議論するのである。私は始まる1-2時間前にその日の論文を読んでいたのであるが、あるとき使う論文が100ページを超える大作だったのを発見したのは、なんと1時間くらい前である。あわてて読み始めたが、とても普通に読んでいては間に合わないで、最初の1・2ページの文章をハイスピードで30秒くらいで眺めていく。そして、1分くらい黙祷して考えると何が書いてあったか、浮かんでくる。次に、ページを上からとくに1行目は丁寧に目で追い、あ

とは、なんとなく全体をながめていく。そうして数ページ進む。またここで1分くらい考える。最後に残りのページは、左上から右下にかけてただただ、闇雲にながめていく。そうして一通り眺め終わったときには、大体、どんなことが書いてあったか理解できたのである。このときは窮余の策でやったのであるが、後の読書に多大な影響を及ぼしたと思う。

文字を眺めることの大切さは、もうひとつ思い出がある。私は26才でシラキュースに留学したが、総計14年の海外生活で日本語がおかしくなったことはないようである。ところが、同じときに私より若い女子学生が来ていたが、2年もするとしゃべる日本語がおかしくなっていた。もちろん、英語もあまりできない。彼女は体育系の学生で本などを読む習慣がないのである。つまり、日ごろから文字に親しんでいないと、言語は身につかない。ほかにも沢山の留学生を見てきたが、日ごろ文字にしたしんでいない学生は、英語も日本語もどちらも失ってしまうみたいである。逆に、私は英語圏に在住中に日本の小説を年間2-3百冊のペースで読んでいたようである。つまり、日本語に飢えるので、読まなくてはいられなくなる。はじめは好みの推理小説から、しまいには谷崎潤一郎の「細雪」など純文学まで、夢中でよんでいた。

私にとって、読書とはまず文字を眺めることである。考えなくてもいいから、一字一句読まなくてもいいから、手元において眺めるだけでいいのである。つまり、好きな本、好きな事柄に関する本、なんでもいいのである。本や活字を手元に置いておくのが大切である。私は最近、家族ともども漫画にこっている。漫画でもいいから、活字のある世界は大切である。

(工学部・システム工学科)

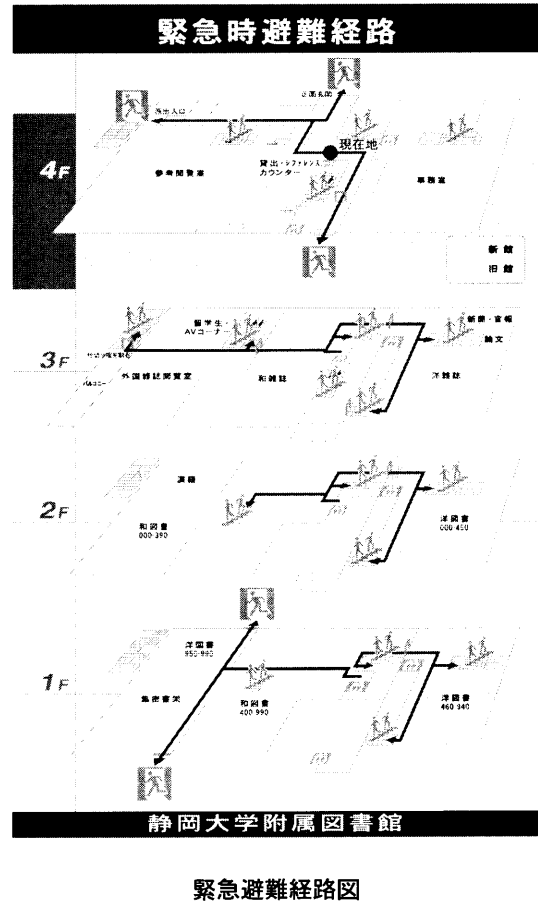
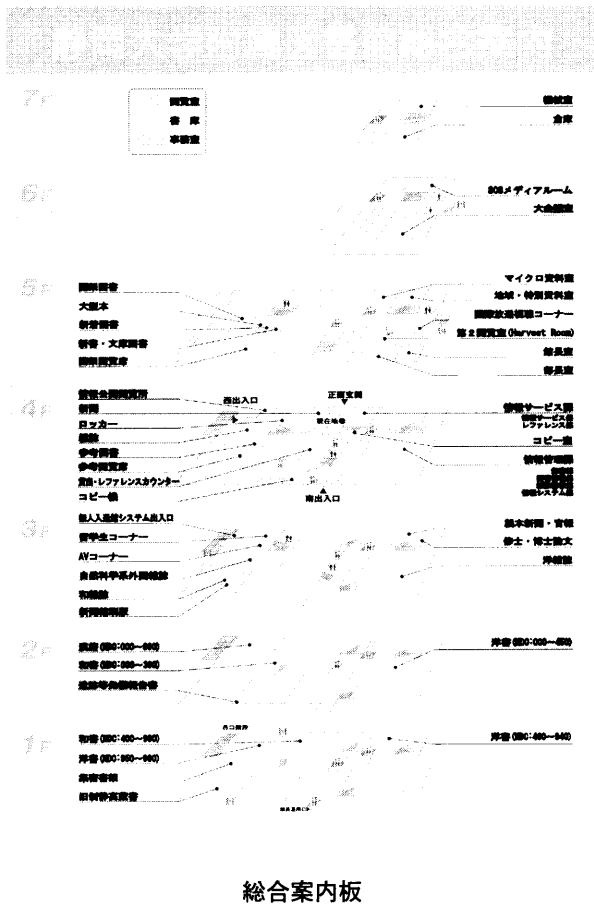


図書館の環境整備 —より安全に、さらに使いやすく—

図書館で最近行った環境整備についていくつかご紹介します。

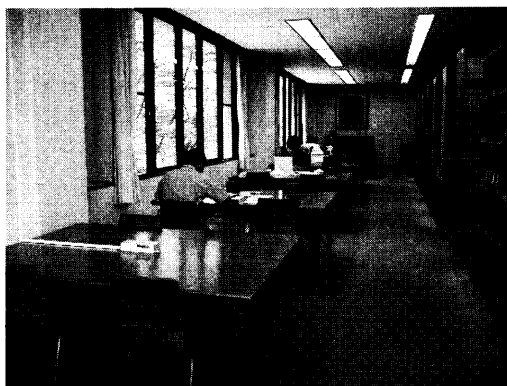
[本館]

図書館4階正面エントランスに館内の総合案内板を設置しました。また緊急避難経路図を書庫各階エレベータ付近壁面に掲示し、フロアやコーナーの表示も増やしました。



[分館]

情報コンセントを48口増設しました。増設場所は、1階と2階閲覧室の南側窓際です。また、この5月にはコンピュータコーナーに3台のコンピュータを増設しました。



2階情報コンセントコーナー



コンピュータコーナー

シリーズ！ 第15回

リニューアルした附属図書館ホームページについて

平成16年4月1日附属図書館ホームページをリニューアルしました。

OPAC
(静大蔵書検索)

携帯版
開館スケジュール

Webcat
(学外蔵書検索)

Web版
開館スケジュール

クリック

静岡大学附属図書館

資料検索

- 図書・雑誌を探す
- 雑誌論文(文献)を探す
- 電子ジャーナルを見る
- 特許・規格を探す
- 新聞記事を探す
- 研究者・研究機関を探す
- 辞書検索を使う
- 参考サイト集

図書・雑誌

- 静岡大学蔵: 静岡大学に1986年(静岡でも調べてく)
- 学外蔵書検索: 全国の大学
- Webcat Plus: 全国の大学 | 連想機能検索
- 国立国会図: 国立国会図 | 博士論文、ま

♪資料検索♪

「図書・雑誌を探す」等用途別サイトへの入口

☆シラバス参考文献

シラバスで取り上げた参考文献リスト
教科別に載せていて図書館所蔵の有無と配架場所も記入有り

☆購入予定学生用図書

☆購入雑誌リストなど

静岡大学附属図書館

資料検索

利用案内 (静岡本館)

利用案内 (学外の方)

- 開館時間
- 休館日
- 各種サービス時間
- 入退館
- 館内案内図
- 配架場所
- 開館
- 休館

開館時間

- 月～金 9:00～22:00 (休業期)
- 土・日・祝日 9:00～19:00

休館日 ※臨時に休館する時には

- 本学創立記念日(6月1日)
- 年末・年始(12月28日～1月4日)

♪利用案内♪

- ☆開館時間
- ☆休館日
- ☆利用方法
- ☆館内案内図など
- ☆春に行っている新入生向け図書館利用セミナーのパワーポイント

6

静岡大学附属図書館

- 資料検索
- 利用案内(静岡本館)
- 利用案内(浜松分館)
- 電子情報

● 電子ジャーナル
【学内利用のみ】

● データベース
【学内利用のみ】

[OPAC](#)
[Webcat](#)
[開館スケジュール](#)
[学外者の方へ
\(静岡本館\)
\(浜松分館\)](#)
[案内地図](#)
[HOME](#)

主な電子ジャーナル

(詳しくはこちらをクリックしてください。【学内利用のみ】)

- Science Direct(Elsevier Science)
- Springer LINK(Springer)
- Interscience(Wiley)
- Synergy(Blackwell)

〈新しいニュースを1ヶ月分ここに掲載します。過去のニュースはこちらへ〉

♪ 電子情報 ♪

- ☆ 電子ジャーナル・データベース
- ☆ CD-ROM 検索
 - (雑誌記事索引・朝日新聞見出し索引・OED・辞書検索)
- ☆ 電子科学研究科の博士学位論文要旨(全文)
- ☆ 静大所蔵のCD-ROM一覧
- ☆ デジタルライブラリシステムのコンテンツ一覧 など

[学内LAN][学内利用のみ]とある場合、静岡大学内でのみ利用できるサイトです。自宅での利用ができませんのでご注意を!!

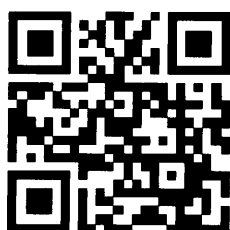
♪ コレクション ♪

収蔵コレクション紹介

♪ 広報・刊行物 ♪

- 『図書館通信』
- 『としょかんニュース』
- 『図書館概要』 の電子版

今回携帯版をご用意いたしました。
開館情報などがここから取得できます。
URL:<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/i/>



最近のCMでお馴染みの携帯QRコードです。この機能付の携帯をお持ちの方は登録されると便利です。

♪ 学外リンク集 ♪

図書館に關係するサイトへリンクしています。
例えば以前の静大図書館のHPを見たい場合、学外リンク集の[国立国会図書館]から以下のようにたどります。

- (例)
- ⇒[国立国会図書館]⇒[電子図書館の蔵書]
 - ⇒[インターネット資源選択的蓄積実験事業]
 - ⇒[協力機関ウェブコレクション]
 - ⇒[大学]⇒[静岡大学]⇒[2004年1月22日]

ここをクリックすると1月22日現在の静大HPに行きます。そこから附属図書館をクリックします。前年度までご利用くださった皆様には懐かしい黄色がベースの昔の附属図書館HP登場です。

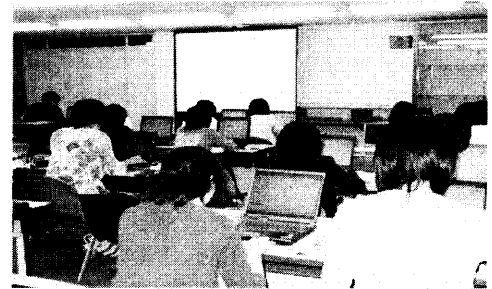
附属図書館利用セミナー実施報告

【静岡本館】

本年度も「新入生セミナー」の1コマとして「附属図書館利用セミナー」を4月19日～6月16日にかけて実施いたしました。

内容は

- ・図書館案内（図書館の使い方）をプロジェクトにより説明
- ・静岡大学附属図書館蔵書検索実習（OPAC 実習）
（パソコン40～47台で実習）
- ・学外蔵書検索実習（Webcat 実習）
- ・静岡大学利用可能データベース紹介
（NACSIS-IR の雑誌記事索引・新聞記事索引・ネットで百科）
- ・館内案内（書庫内ツアー）



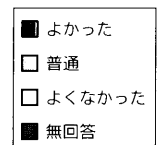
〔検索実習風景〕

以上の5項目で、実習を重点とし蔵書検索を完全マスターすることをめざしました。

このセミナーを通して大学図書館が教育・研究を支援する機関であることを知っていただくとともに、より多くの学生に図書館に親しんでもらい、これからの学生生活充実の一助になればと思います。

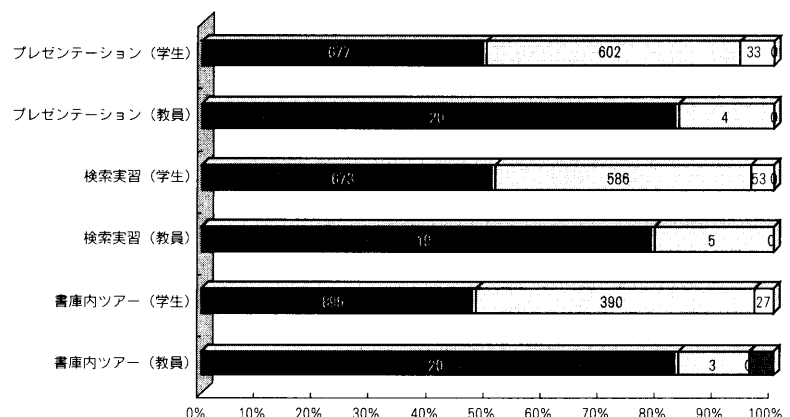
- セミナー実施延べ日数 28日
- セミナー実施回数 48回
- セミナー実施クラス数 93クラス
- セミナー受講人数 学生1312人
教員24人

利用セミナー評価



実施アンケートではさまざまなご意見・ご要望をいただきました。

- ☆もう少し早い時期に実施して欲しい
- ☆授業に即した演習問題をして欲しい
- ☆図書館の使い方が良くわかった
- ☆時間が短かった
- ☆今後の利用に有益でした
- ☆学部生も書庫に入りたい など



アンケート集計結果

上記グラフより、「良かった・普通」を合わせ97%をこえる評価を得ることが出来たとわかりました。改善点は、多々ありますが教育支援の充実に一層の努力をしていきたいと思っています。

【浜松分館】

浜松分館において、新入生セミナーの一環である附属図書館利用セミナーを行いましたので報告いたします。

実施期間：4月20日～6月15日

実施場所：浜松分館 SCS メディアルーム

実施回数：28回

セミナーの内容は以下のとおりです。

- 図書館の概要説明

開館日時、貸出、館内案内図、附属図書館ホームページの紹介や、利用する上でのマナーとお願いなどを説明しました。

- 館内ツアー

実際に浜松分館内をまわりながら、職員が資料の配置や施設・設備の使い方などを説明しました。

- 蔵書検索システム OPAC の説明と実習

使い方だけでなく、コツや注意点なども交えながら説明し、実際に学生の皆さんに検索実習を行ってもらいました。

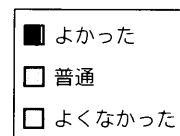
- 図書館でできること

静岡キャンパス・他大学図書館と行っている相互貸借の説明や、各種データベースの説明を行いました。



〔概要説明〕

利用セミナー評価



セミナーの最後にアンケートにご協力いただきました。アンケートの集計結果は右グラフのとおりです。ご意見の中には、とても役に立ったという意見がある一方で、もっと早い時期に行ってほしい（既に図書館を利用しているので知っている等も含む）といった意見もありました。セミナー実施の時期など、図書館だけでは解決できない点もありますが、来年に向けて改善すべきこと、改善できることは直していきたいと思います。

概要説明とデモ（学生）

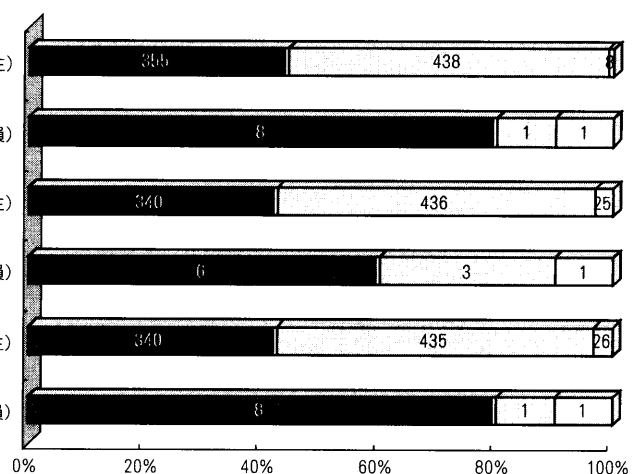
概要説明とデモ（教員）

検索実習（学生）

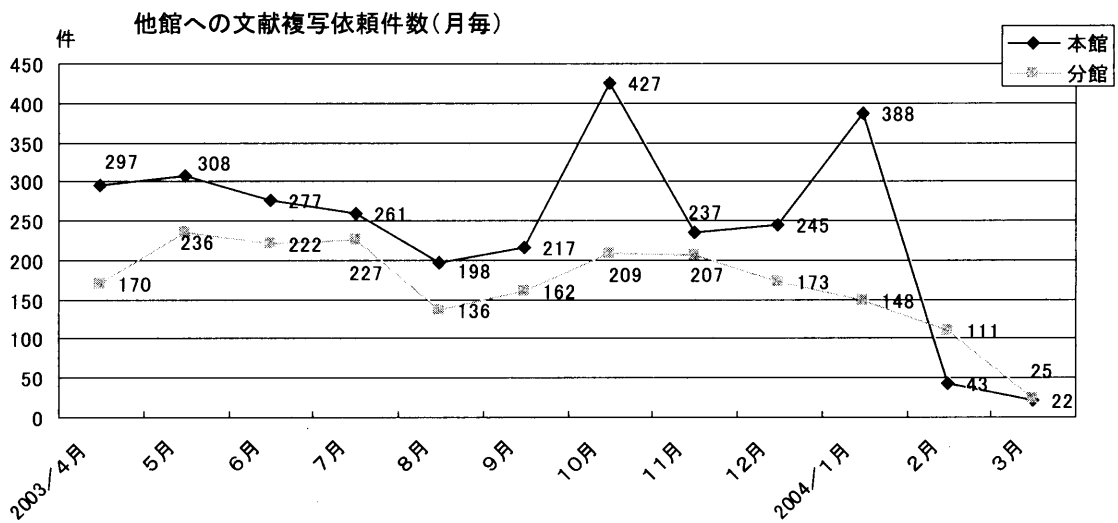
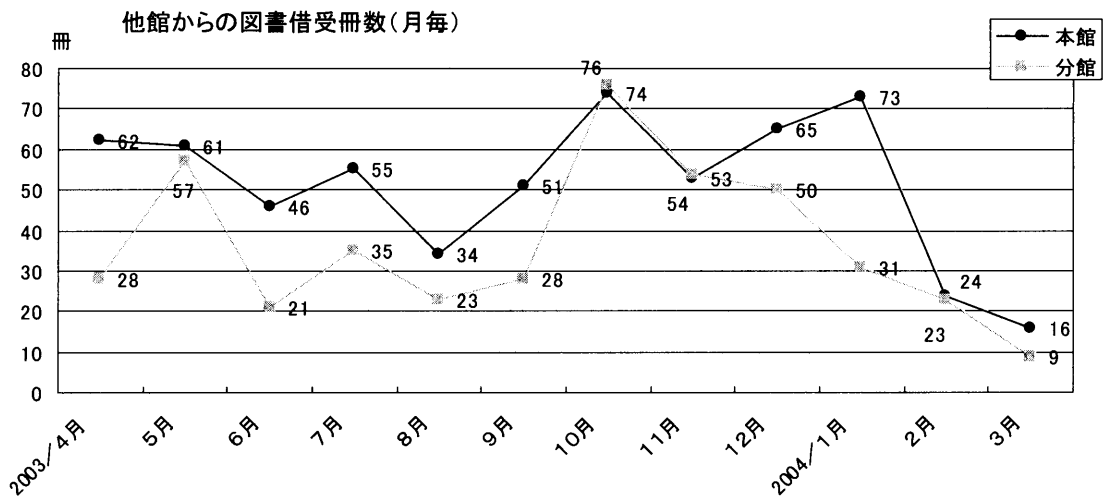
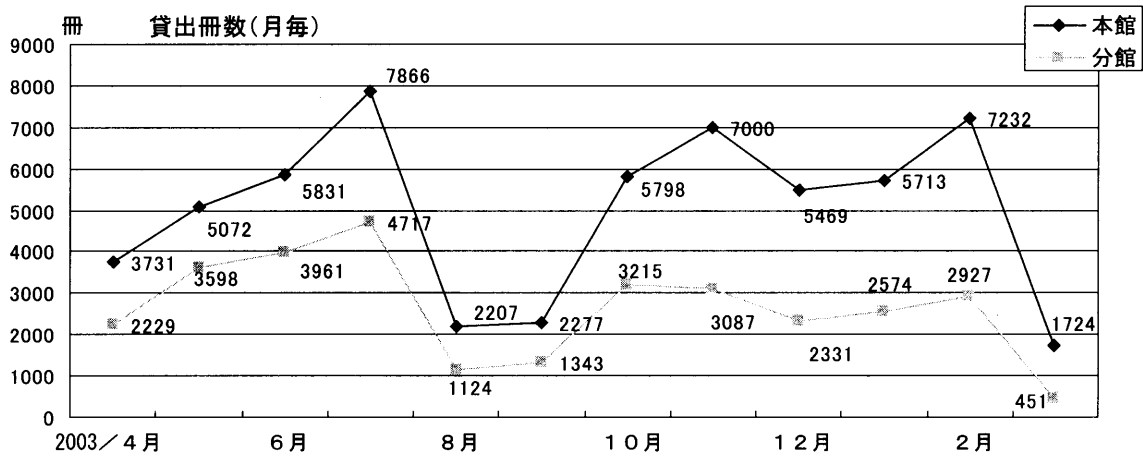
検索実習（教員）

館内ツアー（学生）

館内ツアー（教員）



このセミナーを通して、附属図書館の基本的な利用方法や図書館でできることを知ってもらい、大学生活を通して図書館をより身近に使うことになる第一歩になればと思います。

[illegible]

図書館の動き

◆会 議

平成16年度東海地区国立大学図書館協会総会

(平成16年 4 月23日 (金) 於：三重大学)

附属図書館長、学術情報部長、情報管理課長が出席。

国立大学図書館協会関係諸会議、事務系職員(図書業務)採用試験、平成15年度地区協議会活動状況等の報告があった。

引き続き、平成16年度から発足する「東海地区国立大学図書館協会」の規程(案)、会長館の選出、事業等について、また、文部科学大臣等に対して特に要望すべき事項について、さらに、国立大学図書館協会の運営及び同協会総会・ワークショップのテーマ、並びに大学図書館間相互利用の規程等について、活発な協議が行われた。

平成16年度第 1 回静岡大学附属図書館委員会

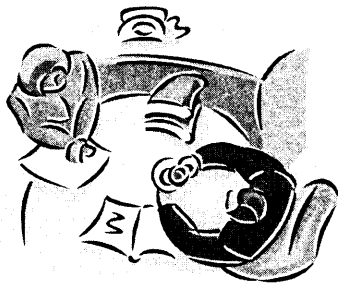
平成16年 4 月26日 (月)

○審議事項

1. 附属図書館関連委員会について
2. その他

○報告事項

1. 附属図書館モニター会議(平成15年度第2回)について
2. 平成16年度附属図書館利用セミナーについて
3. 平成16年度東部学生用図書選定計画について
4. その他
 - (1) 図書館施設・情報環境の整備について
 - (2) その他



◆人事異動

平成16年 4 月 1 日付け

<転入・転出>

木下 彰(情報管理課長→北海道大学附属図書館情報サービス課長)

塩川 銀三(金沢大学厚生課長→情報管理課長)

増井 三男(総務係長→財務施設部財務課専門員)

谷澤 礼子(附属静岡小学校事務係長→総務係長)

<配置換>

釜田香寿枝(雑誌情報係→情報サービス係)

竹村 寛子(情報サービス係→分館サービス係)

近藤 久直(分館サービス係→雑誌情報係)

◆平成16年度附属図書館委員会委員

館 長	番場 公雄	
浜 松 分 館 長	野飼 享	
人 文 学 部	土屋慶之助	荒川 紘
教 育 学 部	兼平 昌昭	横山 義昭
情 報 学 部	林部 敬吉	矢野 正俊
理 学 部	瓜谷 眞裕	丑丸 敬史
工 学 部	東 直人	
農 学 部	朴 龍洙	古谷 士郎
理 工 学 研 究 科	藤原 健智	
電子科学研究科	高野 泰	
電子工学研究所	福田 安夫	田中 昭
大学教育センター会議	半田 智久	
学 術 情 報 部 長	藤森 末雄	

◆平成16年度図書館通信編集委員

館 長	番場 公雄	
工学部(分館長)	野飼 享	
教 育 学 部	兼平 昌昭	
(附属図書館)	塩川 銀三	小濱 進
	小野 華子	杉山 智章
	近藤 久直	釜田香寿枝
	横山 芳美	竹村 寛子

図書館からのお知らせ

静岡本館 4 階閲覧室検索端末コーナーに読売新聞 CD-ROM 検索用端末を設置しました。

端末には明治・大正・昭和(戦前Ⅰ)・昭和(戦前Ⅱ)の4つのアイコンがあります。

読みたい時代のアイコンをクリックしてキーワードを入力してください。

記事全文を読むことなどができます。

■『附属図書館利用マニュアル（教員用）2004』を発行しました■

教員用の図書館利用マニュアル2004年版を発行しました。このマニュアルでは、図書館が所蔵する資料の利用方法や図書・雑誌の購入方法等について細部にわたって説明し、図書館利用照会先一覧を最後のページに掲載しています。

図書の購入方法については、今年度から、一般物品と同様に「会計支援システム」により申し込んでいただくことになりましたので、その入力画面の例示を載せながら、それぞれの項目の入力方法について分かり易く説明し、WebによるILL（文献複写・図書貸借）の申込方法や電子ジャーナル・データベースの利用方法等についても、検索画面の例示等を載せてよりビジュアルなものにしました。

このマニュアルを多くの利用者にご利用いただけるよう、附属図書館ホームページの「利用案内」に掲載し、目次からそれぞれの本文と別紙へリンクしています。図書館のより一層の活用のためにご利用ください。

本マニュアルについてのご意見等がありましたら、下記担当者までお寄せください。

担当：情報管理課図書館専門員 畠山百合子

E-mail: hatake-y@adb.shizuoka.ac.jp TEL: 054-238-4473 (内線2803)

夏休みの開館日程（本館・分館共通）

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
		20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	

8月						
日	月	火	水	木	金	土
	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	
	23	24	25	26	27	
	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	
		21	22		24	
	27	28	29	30		

- ☐ 開館 9:00～22:00
☐ 開館 9:00～17:00
☒ 土・日・祝日 開館 9:00～19:00

※臨時の休館日は、別途お知らせします。

《停電による臨時休館》

(本館) 8月21日(土)
 8月23日(月)午前11時まで閉館
 (分館) 8月23日(月)
 8月30日(月)

● 返却期限日の変更

平成16年7月16日(金)から平成16年9月21日(火)までに貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。

平成16年10月5日(火)

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第148号

(平成16年7月16日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市大谷836

Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408

(再生紙使用)



古紙配合率100%再生紙を使用しています
白色度は70%です

